

第18回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成22年11月15日(月) 18:30~21:00

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：江尻委員長、磯崎副委員長、大木委員、金委員、益子委員、横倉委員

事務局：企画政策部長、企画課長、特命事項担当課長、企画調整担当主査、企画課主事

審議：自治推進委員会の取組みについて

委員 第18回自治推進委員会をはじめたい。前回名古屋市と池田市に視察に行くという話があったが、特にその後委員から質問はないようなので、前回出たことを中心に聞いてもらうこととしたい。前回、報告書をどのように作っていくかについて話をした。また、コミュニティ自治を推進するためにどのようなスタイルで進めていくかについてヒアリングも含めて話をした。何らかの組織、仕掛けが必要ではないかというところで終わった。その組織は様々考えられるが、何か動かす組織が必要というところでは一致したかと思う。2月を目処にある程度報告書をまとめよう、また市長を呼んで話をしようということで、暮れから正月にかけて宿題を持って帰ろうということなので、今回はどのような内容で誰が書くのかを話していきたい。

委員 コミュニティ自治について何らかの仕掛けや工夫は必要だということで一致した。権限や財源を与える法制度的なものにするのか。そこまで必要なくて役割としてつながっているものにするのかということが検討事項になる。既存の組織の調整機能としての組織か、新しく(実質的には今までの人が関わるが)作るのかということがある。そこは方向性を一致させ、それをもとに現状をふまえつつ提言をするようにしたい。しっかりとした仕組み、権限、財源のある組織にするのか。もしくは、地域ごとに違うかもしれないが柔軟な仕組みにするのかを方向付けしたい。

委員 組織をどのようなものにしていくのかということについて意見交換を行いたい。組織は多摩市に合うものでないといけない。自分の地域や経験を考慮して、どうしたらよりよくなるかを考えていただければと思う。組織の権限、財源を持たせるかということについてはどうか。たとえば、今ある組織でより強い権限、財源を持ったらと考えてはどうか。

委員 必ずしも新しい組織を作るという方向で考えるわけではないということで良いか。

委員 現状では何らかの仕掛けは必要ということまでで、その仕掛けをどうするかは未定である。新しい組織を作るだけでなく、選択肢には既存組織の機能強化のような組織間の連携を強くすることなども入っている。

委員 新しい組織を作っても新しい人が入ることは考えにくい。現状では、今いる人が新しい組織にも属し、その人の負担が増えるだけになると思うので、今ある組織

を活用する方向で考えたい。ただ、そこで何をどうすれば良いかはまだわからない。市民協働と言われているが、行政で地区担当を設けるというような動きもほしい。

委員 既存の組織・制度で行政の職員をうまく使い、行政と住民をつなぐ組織をつくるということになると思う。

委員 各委員の経験の中で何を行うと組織の機能が強化されるかというものがあれば教えてほしい。

委員 実際に担う人が出てこなければ、新しい器を作っても中身は整わない。しかし、逆に新しい器を作ることによって新しい層が寄ってくるということはないか。財原や権限があれば、つまりある程度費用を出して地域への貢献を位置づけて謝礼も制度的に整っているとすれば、仕事をやっても土日だけでもやってみよう、頑張ってみようという人も出るのではないか。そのような見通しがないといくら作っても意味はないかもしれないが、それはどの程度見込めるか。

委員 地域に関わるきっかけを提供するのは誰なのか、どんなものかというのがポイントになる。10月の多摩市行政評価市民委員会で市民が委員を行っていたが、もし多摩市の行政評価をやろうというのを行政ではなく、市民団体などがやったとしたらなかなか新しい人は集まらなかったと思う。また、11月の第五次総合計画基本計画のワークショップも行政が行うから参加しやすいというものはあるようだ。多摩市は市民自治に関心の高い人が多いが、そのきっかけがないというもったいない状態にあるのではないか。何か新しい仕掛けをすることで、その人たちが出てきてもらえればかなり変わってくるのではないか。それが既存の組織か、新しい何かを作るのか、既存の組織同士を連携させるのかというのはまとまっていない。参加してもらいたいのは、30代になる。

委員 その世代がどういうきっかけで出てくるかはわからない。

委員 前回、活動などを行う場が必要という話が出た。個人的にはコミュニティーセンターかと思うが、運営協議会との関係が出てくる。

委員 前回の委員提案の中には、将来新しい組織を作るにしても、まずは権限を持つというよりは実務的な役割を担うというような事務的な組織で行うという話もあった。その機能としては、実務レベルで動く、情報共有化できるというものだったと思う。

委員 地域で連携して課題解決するには、地域の住民だけでなく、行政が入っていく必要があるのか。委員にはそのような提案や考えの方が何人かいたと思う。

委員 行政が入ることで、押し付けと思われなくもないが、個人情報などは、自治会等で

は情報が入り難いので、行政の情報を出来る限り流してもらえれば活動がしやすくなると思う。

委員 地区担当の行政職員は、メンバーではなくオブザーバーとして情報提供の橋渡しになるということか。

委員 そこまではまとまっていない。

委員 行政職員が地域に入ってくるとはどういうイメージか。

委員 多くの意見を吸い上げるという自治を引き出すのであれば、その組織の役割が見えないと動きにくい。今ある組織を使うにしても、どのような人に新たに加わってほしいか。たとえば、コミュニティーセンターを中心とするのであれば運営協議会に関わっている年代は限られている。年代の幅を広げるのであれば、活動の方向性について提示するため、行政の力が必要であり、それが地域担当の職員の役割だと思う。せっかく新しい組織を作るのであれば事務局機能だけではもったいない。ただ、それにはまず委員会を作る意味合いがはっきりしてこないと難しい。自分の地域で、できる、できないは別として、コミュニティーセンターと青少年問題協議会が合わされば、年代や扱う内容が広がると感じる。それに行政が加わり、何を考えてほしいのか、どういう人を連れてきてほしいかと伝えれば、幅が広がるかと思う。地域の人も行政職員も何をその組織に聞きたいのかということをはっきりさせるべきかと思う。

委員 テーマ別にメンバーが増減するというのもあっても良いということか。

委員 そうすれば、今回は関心があるから参加しようということにもなるかと思う。

委員 テーマを設定してメンバーを募り、柔軟にやったほうが参加のインセンティブが働くのではないか。

委員 テーマ別の場合は継続性がないというのが問題になる。

委員 1回だけでは意味がないので、それをどうするのが課題ではある。テーマによって何回行うかは変わってくるが、そのような柔軟性があつた方が意見は出やすいと思う。

委員 藤沢市は地区ごとに市民にホームページの書き込みをしてもらい、問題抽出をした。地区ごとに問題、関心はさまざまで、うまくいっていない地域もある。ここと風土が違うが、ホームページからということを見ると若い人の意見が多いのではないか。市民へのインセンティブとして、地域人口の税収の何%は裁量で使用できるようにして、地区担当の行政職員とは相談して決めてと委任したらどうなると思うか。コミュ

ニティーセンターの母体を使うか等は地域で決めてもらう。その枠組みを投げてみてはどうかと思う。

委員 前回報告のあった名古屋市の地域委員のモデル地区で、委員を選ぶ選挙の投票人への参加申請者ですら約1割程度しかなかったようだが、その点で公平性などは問題ないか。

委員 意見をどのように集約するかによる。地域の意思なのかというのは行政が予算をおろすときに審査する必要がある。また、予算を使うにしろ、使わないにしろ住民の意識が反映されているか第三者が見て適正かどうかの判断は必要。

委員 公金を実質的に使うとなると、一部の人で使ってはいけないが、信任を受けた人が決めるのであれば良い。提案の場合については、実質的には地域の意見を聞いているが、地域によっては一部の人であることがあるかもしれない。その場合は市長が予算編成の提案について決定権を持って判断を行う。そのような2段階決定の方法にある。

委員 一部の人、一部の意見になるのが怖い。

委員 公金が自分たちで使えることになると、今までの組織のあり方とは違ってくる。税金を使うことで、自分たちの地域だけでなく全体の利益に結びつくかについても考える必要がある。そこがバランス良く考えられるかという懸念はあるが、少しずつ進めていかななくてはならない。お金を地域の中の何に使うのかという問題があるが、それがテーマ別に話し合うということにもつながっていく。

委員 扱うこととしては、防災事業の運営費に充てるなど、ソフト事業が最初は考えられるのではないか。物や装置が動くのは出なく、人が動いたときの活動費が当面考えられるのではないか。

委員 地域の中でもっとお金があればこれができるということはないか。使わなくてはならないので考える、というようになってはいけない。ニーズがあるから使うというものではなくてはいけない。

委員 任意託児所をマンション等で作ってはどうか。コミュニティービジネスなどでも行われている。

委員 ニーズを引き出すための組織であるべき。地域に必要な意見をどのようにしたらうまく引き出せるかを考えないといけない。

委員 テーマを出せば、それに関心のある人は応募してくると思う。呼びかけて全体をコーディネートする役割をどこが担うかということになってくる。既存の組織をくつつ

けた場合はその組織がその機能を担わないといけない。

委員 継続的に関わる人がいたとして、他にテーマ別で提案を募集して、提案をした人が関わるという方法はどうか。メンバーをフレキシブルにして、発案した人に参加いただき、中心になってもらったり、人集めに関わってもらうなどのルールと作ることも必要になる。

委員 私が所属する NPO では、テーマを挙げた人は、それに関連した補助金等の申請も行う。ただそれとはべつに事務局はあり、情報をみんなで共有して、手伝える範囲で手伝う等、そのような連携を行ってきている。東ねるところがしっかりしているかどうかによって、安心して任せられるかが決まる。何かあったときに助けを求めていることを発信する機関が必要になってくると思う。それがコミュニティーセンターか自治会か、青少年問題協議会なのか。一つ大切なのはハードの面で、人が集まる場所が必要。団地の空き店舗などがあるが、地域を行き来しやすいように作られているのがコミュニティーセンターである。運営協議会に汗をかいてもらう、もしくはコミュニティーセンターとは別に組織を作って、コミュニティーセンターを使っていくなどその点の整理ができると良い。

委員 青少年問題協議会の対象はどの年代か。

委員 小学生から高校生まで。その世代に関わりのある人はいるので、小学生の子どもがいる家庭は幼児もいたりする。また児童館も幼児を対象にしているので、そのような話が出ることもある。

委員 そうすると、それより年代が上の層が問題になる。19 歳以上が参加する組織はないか。自治会はすべてが対象になっているが。

委員 消防団も対象は重なる。

委員 消防団は現状では年配の世代が多い。

委員 ボランティアセンターがあり、世代も重なるので、社会福祉協議会と協調してけると良い。

委員 社会福祉協議会が地域に出していけば、19 歳以上も対象なので良い。

委員 地域によっては自治会も青少年問題協議会に出ている。兼任している人は多い。青少年問題協議会には学校の先生も来ている。

委員 教育委員会でも進めているが、学校関係者と PTA と地域の人をつながりはある。

- 委員 商工会や商店街などは関係ないか。
- 委員 多摩センター地区連絡協議会には商店会もが入っていて、ライトアップなどは商店会を含めて協議会がやっている。自治会も時々の連絡協議会の行事には参加しているが、あまり積極的ではない。
- 委員 集う場を提供できるという部分ではコミュニティーセンターは場を持っている。年間の活動の中に、地域懇談会が年2回あるが、そこで地域問題がクローズアップしてこず、他の話になってしまう。連絡組織を広げていって、毎月行うなどして運営協議会が事務局代わりで人の橋渡しをしてあげようというのは考えていない。コミュニティーセンターの趣味の域を超えたくないというのははっきり言っていた。
- 委員 もともとの構想は地域の核となるようなというものだった。
- 委員 月次でコミュニティーセンターの会長会があると思う。これを会長会に提示して、話を聞いてみるのはどうか。
- 事務局 会長会は2ヶ月に1回の連絡会を市役所で行っている。
- 委員 自治会の活動はコミュニティーセンターと連絡をとることはあるのか。
- 委員 今までは、ほとんど無かった。
- 委員 総会でコミュニティーセンターを使わせてほしい。コピーを使わせてほしい等の利用はあり、最近は増えてきている。
- 事務局 乞田や貝取は地元の自治会が運営協議会に入っており、場所によって違う。
- 委員 コミュニティーセンターの運営協議会のメンバーには、まとめ役、お世話役にならなければならないという意識はあるのか。
- 委員 ある人もいるだろうが、意識はそれぞれだと思う。
- 委員 住民個人はどうか。NPO やボランティアでコミュニティーセンターを借りることはあるか。
- 委員 場所を借りるということはある。コミュニティーセンター側から協力してほしい、イベントに出てほしいと依頼することはあるが、コミュニティーセンターから一方的に行うもので、だめだったらそれで終わりになる。

- 委員 ただ、お互い顔は知っていて、連絡を取り合える状態にはあるということか。
- 委員 多摩市は地域に根ざしたNPOなどの団体とコミュニティーセンターが連携しているという話は聞かない。
- 委員 NPO センターなどで連絡が取れるので、あえてコミュニティーセンターに行かないのかもしれない。
- 委員 テーマごとに連携すれば良いと思う。ずっとではなく、必要な時の連携という形で。
- 委員 財源があり、また活動するチャンスが広がるので、内容によっては可能かと思う。
- 委員 団体によっては、お金と場所がないから力があってもできないという所がある。投げかけ方によっては、その人たちの活動も可能になる。地域によって特徴が出て、子育てに強い、高齢者に強いなどになると面白い。ゆう桜ヶ丘は結束力があると思う。
- 委員 ゆう桜ヶ丘コミュニティーセンターなどは一戸建てが多い。入居時期などが近く意識が比較的一致していることが大きい。他の地域は戸建、集合住宅、民間のマンションとばらつきがある。
- 委員 ゆう桜ヶ丘は年配の人が多いが、たくさんの人が集まる。地域のために何かやりたいと口をそろえて言っており、できることをボランティア活動としてやっている。時間に余裕のある人が多いように聞いた。
- 委員 合意形成はどうか。個人個人はやってみたいと思っけていても、話はわかるなどあるか。イベントとは別に何かのテーマがあるから集まるというわけではなく、特に関係なく集まってくるのか。
- 委員 そこはわからないが、イベントにはかなり集まっていた。もちろん、地域によってさまざまで、同じようにできるかはわからない。
- 委員 現状では地域割りをしていないが、コミュニティーセンター単位の地域割りになるのか。
- 事務局 コミュニティーセンターは11館構想になる。
- 委員 集合住宅と戸建で意識の違いがある。

- 委員 11区にわけるというイメージか。
- 委員 そうすると1区に1万5千人ぐらいか。
- 委員 人数としては多い。中学校区では8千人ぐらいになる。少子化なので、もう少し少ないかもしれない。都市によって1万人ぐらいのところもある。中心にやっている人はお互いに顔を知っているという規模だと思う。
- 委員 基本はコミュニティーセンターを中心に行うということになるか。
- 委員 地域に応じて実情が違うので、他のパターンは考えられないか。大きくはこれで、あとはバリエーションが地域に応じて考えられるということを付記して細かく市との関係、運営、市民への働きかけ等を書いて行くことになるか。
- 委員 コミュニティーセンターエリア以外で特徴があるところはあるか。商店街でお店がたくさんあるところはあまりない。一ノ宮や桜ヶ丘の聖蹟桜ヶ丘駅前はどうか。多摩センターや永山は地域の商店街とはまた別のイメージがある。多摩川から川崎街道の部分はつむぎ館になるのか。あそこはコミュニティーセンターは3階と4階の一部なので他の館とは違うように感じる。
- 事務局 もともとは健康センターと老人センター、地区市民ホールとして作った。その後に、老人センターと地区市民ホールがコミュニティーセンターになった。
- 委員 運営としてはしっかりしていて、商店街との協調もやっていて、見習うところも多い。各団体ともそれなりの活動をしているので、新しい組織を作ると、また会議が増えるのかという反応はあると思う。そのため、どうしても行政に音頭をとってもらふ必要はある。課題はあるが、いずれにしても行政の主導がないと組織同士の押し付け合いが懸念される。
- 委員 希望地区に手を挙げてもらうというのはどうか。
- 委員 以前モデルを作ったらという話をしたが、行政の方でやるなら一度にという話であったかと思う。
- 委員 委員会としては、一度にやろうとするとうまくいかないと言うことができる。手を挙げた地域には、地区担当を置き、予算も誠実に検討し次年度予算に反映するとする。市がもつところ、地域がもつところと協定を結ぶ等の検討の余地もある。
- 委員 コミュニティーセンターの運営協議会がすでに活動しているところは、手を挙げてもらうと良いが、新設するところは大変になる。

委員 受けて得するような話ではないと受け手がいない。インセンティブがないと動かない。

委員 中心となる人の存在が大きい。

委員 テーマをどうするかという点も運営面をどうするかという点も課題である。

委員 そこを視察で聞いてきてほしい。どうやって運営の中心になる人を見つけたのか、

委員 行政側の調査に基づく結果と市長単独で持っている考えもある。委員会はそれと整合性をとる必要はないというスタンスできているが、どうするか。

委員 ぴったり合うことはないと思うが、市長も委員会も地域がより良くなることを望んでおり、方向性は同じなので、それほどずれることはないと思う。スケジュールとしては2月頃に市長と話をする事になっているので、それまでにまとめておき、第1弾としてぶつけて、その後時間があれば他のところを見に行ったりしながら、最終的に6月までにまとめたい。行政でも視察に行くが、できれば委員会でもコミュニティ自治を考えながらまちづくりをしているところを知りたい。今は多摩市のことしか見ていないので、少し離れたところで多摩市の現状を見てみるのも必要かと思う。ただ、時間の問題があるので、どこまでできるかはある。

委員 三鷹市や武蔵野市は多摩市がコミュニティーセンターを作るときにモデルにしているところになる。両市とも、長く住んでいる人が頑張っているところなので、多摩市とは少し違う。いろいろなところからいろいろな人が集まってきて、コミュニティができて、というのが見られると面白いと思う。

事務局 調布市はコミュニティ協議会の見直しを検討している。今までで不都合ができていたのを構想の中でこういうのを作りたいというのがあるのかと思う。

委員 藤沢氏には年内に行ってほしい。調布市もアポイントを取ってもらえるなら、行っても良い。市民レベルの話を知りたい。なぜ見直しするのか正直に答えてもらえる人に。

委員 日程調整が難しいので、いける人が行くということになると思う。そして、それを持ち寄って話をするとふくらみがでるかと思う。年明けまでにヒアリング結果は書き直して、それぞれの分担で書いてくるということはお願したい。その後どういう提案をしていくのかという部分については、2月に一度まとめをして、市長の話聞いて、その後に行っても良いかと思う。

委員 全員で行くことにこだわらず、3人以上集まったら行くとしてなら可能だと思う。

委員 最終的には5月の委員会でチェックをする。6月に最終的に渡すということにしたい。今後は月に何回かやることも出てくると思う。次回は視察の報告をいただき、それまでに他の市へ1回ぐらい行けると良い。12月中に調布市か藤沢市かと連絡をとっていきたい。メールでやり取りしながら日にちを決めてやりたい。委員会とは別で自費で任意で行く。次回は報告書の分担を確認したい。1月に前半の部分を持ち寄り、日にちを決めて事務局へ出し、打ち出したものを見ながら意見交換をする。2月にそれをまとめて、市長と意見交換をする。その意見を参考にして、ヒアリング等もして、3、4月で構想を完成させていく。

委員 12月に分担して1月に持ち寄るのは報告書をイメージしてA4に1枚ぐらいで持ってくるのか。

委員 報告書の前半はすでにヒアリングで分担して書いたものなので、報告書らしく手を入れていくということ。すでに書いたものをまとめていくということ。書き方や作文量については、次回決めたい。項目立てをおさらいして、何を書くべきかを統一したい。報告書の後半の提案部分は1月にテーマを持ち寄る。今後は、今回ホワイトボードに記載したこの絵(※下記図1参照)を使いながらやっていきたい。次回は、12月13日(月)に行う。1月は、12日(水)としたい。これで、本日の委員会を閉会する。

